

<報告>

「被爆 70 年史編さん資料コーナー」の開設について

■被爆 70 年史編さん事業

本市は、平成 27（2015）年が被爆 70 周年という節目の年にあたることから、その記念事業の一つとして、平成 26 年から、被爆 50 年史以来 20 年ぶりとなる市史の編さんを行いました。

平成 30 年 7 月、「都市と市民生活」を基本テーマとして明治 22（1889）年の広島市誕生から原爆被災を経て復興し現在に至るまでの広島の歴史をたどる『広島市被爆 70 年史 あの日まで そして、あの日から 1945 年 8 月 6 日』（以下、被爆 70 年史）を発行しました。

編さんにあたっては、できるだけ最新の研究成果を踏まえた内容とすることを目指し、被爆 50 年史編さん以降に発掘あるいは作成・公表された資料や写真を新たに収集し、市史編さんの参考にしました。この度、これらの資料を広く皆さんにも御利用いただけるよう、7 階閲覧室内に資料の一部を紹介する「被爆 70 年史編さん資料コーナー」を開設しました。

このコーナーでは、資料を広島の近現代史に関わりの深いテーマ「移民」、「原爆」、「占領」、「文化・スポーツ」と「その他」に分け、テーマごとに資料を配架しています。本稿ではその概要と資料の一部を紹介します。



■コーナーの概要

・移民に関するもの

広島県の安芸地方は、零細な土地を耕作している農民が多く、幕末期から、遠方への出稼ぎがかなり行われていました。海外移住は、明治 18（1885）年のハワイへの官約移民の送出から本格化し、米国、カナダ、ペルー・メキシコ・ブラジル等の中南米、オーストラリア等のオセアニア、フィリピン等の東南アジアへも移民を送り出しています。昭和 10 年代になり日本の勢力圏が拡張すると、満州国への移住が盛んになりました。全国一の移民送出県であった広島県の中でも、安芸郡坂町から大竹市に至る広島湾沿岸と太田川下流域は、移民が最も多く送出された地域であり、現在の広島市域はその主要部分を占めていました。

このように、「移民」は広島市の明治以降の歴史を語る上で重要なテーマであり、また戦後復興期の海外からの支援にも密接な関わりがあります。このコーナーには海外移民に関する基本的な図書、各地の日本人社会に関する図書、戦時中の抑留に関する図書、移民の体験記等 39 点（洋書 11 点を含む）の資料を開架しています。

<資料の一例>

- ・『カナダへ渡った広島移民 移住の始まりから真珠湾前夜まで』ミチコ・ミッツ・アユカワ著 / 和泉真澄訳 2012 年
- ・『移民たちの「満州」：満蒙開拓団の虚と実』二松啓紀著 2015 年
- ・『アメリカ・ハワイ日系社会の歴史と言語文化』朝日祥之・原山浩介編 2015 年
- ・『一世 一黎明期アメリカ移民の物語りー』ユウジ・イチオカ著 1992 年
- ・『“虹の橋” 日商工七〇年史』ホノルル日本人商工会議所内商工歴史刊行委員会編 1970 年
- ・『越境者の政治史：アジア太平洋における日本人の移民と植民』塩出浩之著 2015 年



・原爆に関するもの

本市は昭和 20 年（1945 年）8 月 6 日、原子爆弾投下により、壊滅的な被害を受けました。原爆による被害とその後の復興の歩み、被爆者支援等の取り組みは、広島市の歴史の中で特に重要なテーマです。

被爆から 70 年を経過し、被爆者の高齢化が進み、被爆体験や復興の歴史を次世代へ継承することがますます困難となっています。被爆 70 年史では、若い世代に被爆の実相を伝えることを目指し、本書だけでなく、被爆者の証言等を収録した DVD も付録として作成しました。

このコーナーでは、原爆開発の経過、原爆炸裂による被害、救援活動、被爆調査、放射能の影響、その後の核開発等、原爆とその被害に関する図書を中心に多様な資料 77 点（洋書 26 点を含む）を開架しています。

＜資料の一例＞

- ・『原爆投下とアメリカ人の核認識 通常兵器から「核」兵器へ』マイケル・D・ゴードイン著 2013 年
- ・『南方特別留学生ラザクの「戦後」－広島・マレーシア・ヒロシマー』宇高雄志著 2012 年
- ・『原爆の記憶 ヒロシマ／ナガサキの思想－』奥田博子著 2010 年
- ・『ヒロシマ戦後史 ー被爆体験はどう受けとめられてきたかー』宇吹暁著 2014 年
- ・『被爆者調査を読む ーヒロシマ・ナガサキの継承ー』浜日出夫ほか著 2013 年
- ・『原爆はこうして開発された（増補版）』山崎正勝・日野川静枝編著 2009 年
- ・『《原爆の図》全国巡回：占領下、100 万人が観た！』岡村幸宜著 2015 年



・占領に関するもの

戦後の占領軍の広島への進駐は、昭和 20（1945）年 9 月、米陸軍第 10 軍団の先進隊が呉に入ったのに続いて、10 月に宇品、呉、広島、海田市等に約 19,500 人が進駐し、その後、21 年 2 月からは、米軍に代わりイギリス連邦軍が中国・四国地方を担当、広島地域はオーストラリア軍が中心となって呉等に駐屯しました。

こうした治安部隊とは別に日本の占領改革を行う組織として昭和 20 年 10 月、GHQ/SCAP（連合軍最高司令官総司令部、以下 GHQ）が設けられ、日本を民主主義的な政治体制に改革する長期の占領政策が開始されました。また各都道府県には、GHQ の日本政府に対する指令・指導・助言が地方自治体にどのように伝達され実施されているかを監視するため、地方軍政部が配置されました。

このコーナーでは、広島市の市政、福祉、教育、都市計画や市民の生活に大きな影響を与えた GHQ の占領政策を概説する基礎資料をはじめ、占領に伴う改革、検閲に関する資料等 109 点を開架しています（洋書 7 点を含む）。

＜資料の一例＞

- ・『GHQ 日本占領史』（全 56 巻 日本図書センター）
- ・『占領下の日本』天川晃著 2014 年
- ・『検閲：原爆報道はどう禁じられたのか』モニカ・ブラウ著 2011 年



- ・『原爆と検閲 アメリカ人記者たちが見た広島・長崎』繁沢敦子著 2010 年
- ・『占領期の出版メディアと検閲』広島市文化協会文芸部会編 2013 年
- ・『敗戦と暮らし（占領期生活世相誌資料Ⅰ）』永井良和編 2014 年
- ・『日本占領の日々 マクマホン・ボーン日記』アラン・リックス編 1992 年
- ・『英連邦軍の日本進駐と展開』千田武志著 1997 年

・文化・スポーツに関するもの

被爆 70 年史では、「広島・ヒロシマと美術」、「広島と音楽」、「映画と広島・ヒロシマ」、「スポーツ王国広島」の 4 つの特論を設けて、それぞれの明治以降の歴史について概観しました。文化やスポーツは市民生活に関わりの深いテーマです。

このコーナーには、音楽、映画、スポーツ等の文化・スポーツの変遷に関する資料 28 点を集めました。



・その他の資料

被爆 70 年史で取り扱った時代やテーマ、例えば日清戦争をはじめとする戦争、軍都広島、戦中の市民生活、戦後の復興の歩み、都市計画、教育制度改革等、前述の 4 つのコーナーに区分できない多様なテーマの資料 257 点をまとめて開架しています。

<資料の一例>

- ・『<近代都市>広島の形成』布川弘著 2018 年
- ・『日露戦争スタディーズ』小森陽一、成田龍一編著 2004 年
- ・『内務省の社会史』副田義也著 2007 年
- ・『明治地方自治体制の起源 近世社会の危機と制度変容』松沢裕作著 2012 年
- ・『戦後広島の都市診断』林雅孝ほか編 1991 年
- ・『大日本帝国の崩壊と引揚・復員』増田弘編著 2012 年
- ・『引揚援護の記録（正・続・続々）』引揚援護庁ほか編 2000 年
- ・『広島戦災児育成所と山下義信 一山下家文書を読む』新田光子著 2017 年
- ・『近代日本の徴兵制と社会』一ノ瀬俊也著 2004 年
- ・『明治期日本の陸軍：官僚制と国民軍の形成』大江洋代著 2018 年
- ・『被爆都市 ヒロシマの復興を支えた建築家たち』李明著 2012 年
- ・『近代日本<陳列所>研究』三宅拓也著 2015 年
- ・『近代日本の食糧政策 一対外依存米穀供給の変容一』大豆生田稔著 1993 年
- ・『戦後食糧行政の起源：戦中・戦後の食糧危機をめぐる政治と行政』小田義幸著 2012 年



このほか、戦前の資料等は 7 階資料室で保管しています。

このコーナーを紹介したホームページでは、被爆 70 年史編さん資料の一覧表 (Excel) を公開していますので、ご覧になりたいものがあれば、職員にお声かけください。

ホームページ URL：<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/5/196126.html>